

平成 28 年 第 1 回日本細菌学会関東支部総会評議員会議事録

(日時：平成 28 年 5 月 13 日 (金) 15:00～、会場：東京大学医科学研究所)

出席：奥野ルミ (支部長)、秋庭正人、祝弘樹、祖母井庸之、落合邦康、甲斐雅規、鈴木香、林俊治
(各、評議員)、久保田寛頭 (事務局)

欠席：知花博治、富田治芳、三室仁美、柴山恵吾、関水久、清水健、(各、評議員)

報告連絡事項

1. 学術集会委員会からの連絡

鈴木委員長から第 100 回支部総会 (平成 29 年) の総会長として斧康雄先生 (帝京大) を選出したとの報告。会場として帝京大学の講堂を予定。開催にあてる予算額を審議したいとのこと。

2. 活性化委員会からの連絡

祝委員長からの平成 27 年のインターラボセミナーの実施報告、ならびに平成 28 年以降の同セミナーの開催時期等に関する審議依頼。平成 28 年セミナーでは、8 月に演題を募集、10 月から 11 月頃の開催を考えているとのこと。なお、平成 28 年セミナー発表者は、第 100 回支部総会でも発表するという取り決めの下で行う予定。

3. 編集委員会からの連絡

三室委員長が欠席のため、奥野支部長が代理で近日中にホームページのアップを行う予定との報告を行った。

4. 平成 29 年以降の細菌学会本部からの支援金について

奥野支部長から、細菌学会総会会期中 (3 月) の支部長会において、平成 29 年以降、本部から支部への (支部会員数に応じて自動的に額が決まるなどの) 従来のような支援金を中止する連絡があった旨を報告。支援金は、支部から本部へ使用目的等を明確にした上で申請し、本部の審議を経て決定される方式になるとのこと。本部では平成 31 年の法人化を目指しているため、各支部でその後の運営について方向性を決めておく必要がある。

審議事項

1. 第 100 回支部総会 (平成 29 年) について

本件は、本部支援金に関する報告事項とは切り離せない問題であるとの下で審議。例年 70 万円程度の予算額であるが、学会法人化の予定等を考慮して 100 万程度に引き上げるなどの案も見られたが、開催予算額は会場使用費や抄録作成費と大きく関わるため、斧総会長との相談の下で決めていくこととなった。

また、平成 28 年インターラボセミナー発表者が第 100 回支部総会でも報告するという取り決めであるが、非学会員に関しては義務ではなく勧誘という形にすることとした。

2. 支援金中止後の関東支部の方向性について

様々な規約上の問題から、支部会解散は行わないという方針で意見が一致。支部活動を、総会等を含めた従来通りのものにしていくか、活動規模を縮小して最低限の事務的な機能だけ維持していくかという点が論点となった。

総会等を継続していく場合は限られた予算での運営が必要になるが、独自収入（もしくは、会費外収入）を講じる他、総会をインターラボセミナーのように若手中心のコンパクトな発表会に転じるなどの案も出された。本部法人化に合わせた会計上の問題などから、第 101 回総会（平成 30 年）からの方向性のシフトが望ましいとも考えられた。ただし、支部総会をコンパクトにした場合、会務総会を行うため会員が一同に集まる機会が失われることも懸念された。この問題については、全国総会の際に支部が集まる機会を設け、会務総会を兼ねる形をとるという解決策が提示された。

これら支部運営の審議内容については、支部会員に対してアンケートを行った後、会務総会にて承認を受けるという方向性で意見が一致した。